

## 令和4年(2022年)年頭のご挨拶

令和4年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様におかれましては、日頃から会の運営に特段のご理解とご支援を賜り心より感謝を申し上げます。

さて、去年の国内情勢を顧みますと、一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響が我々の生活や経済に重く押し掛かり、引き続き厳しい1年でありました。度重なる緊急事態宣言などから社会・経済全体が委縮していましたが、後半からはようやく国内感染者数が落ち着き、経済活動が再開して参りました。しかしながら、新たな変異株への懸念もあり、なかなか本来の状態には戻らないまま年の瀬を迎えた気がいたします。さらに、原油価格等の原材料の高騰、半導体不足等の新たな問題が顕在化しており、私ども中小企業にとってはますます先の見えない、難しい経営環境が続いているように感じております。

そうした中で、去年の明るい話題として挙げられるのは、やはり東京オリンピック・パラリンピックではないでしょうか。無観客という形ではありましたが、過去最高のメダル獲得数となった日本選手の活躍に、国民全体が大変勇気づけられ、また世界に対しても非常に大きなメッセージとなった気がいたします。また、去年10月には、岸田新内閣が「成長と分配の好循環」の実現を目標に掲げ発足いたしました。新政権には、コロナ禍で必死に堪え忍んできた私ども中小企業が、1日も早く本来の活力を取り戻して行けるよう、迅速かつ実効ある政策推進に期待したいと存じます。

今後も当面はコロナと戦いが続くと思われませんが、ワクチン普及や治療薬開発が進むとともに、いずれは終息を迎えるはずです。また、コロナ禍での消費行動やライフスタイルの変化に応じたビジネスモデルの転換、DXと言われるデジタル技術による思い切った経営革新や生産性向上など、事業の再構築に取り組む動きも増えてきております。こうしたピンチをチャンスに変える力は、正に中小企業の持つ強みであると思えますし、そうした取り組みを進めるうえでも、やはり事業者間のネットワークや組合等の連携組織というものの存在が益々重要となってくると確信いたしております。本会といたしましては、地域の中小企業が様々な経営課題に積極果敢に挑戦していけるよう、これまで以上に会員組合の皆様との連携を強めつつ、多種多様な支援を展開して参る所存です。

今年は十二支で「壬寅(みずのえとら)」です。「壬」は「妊」と同じように生命の誕生を宿す意味を表し、「寅」は草花が伸び始める状態を表すそうです。冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる年になるとも言われております。

今年こそはコロナ克服の年となることを期待しつつ、皆様にとって新たな飛躍に繋がりますことを心よりお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

令和4年1月4日

栃木県中小企業団体中央会

会長 齋藤 高藏